

企画余話

「楽しい浮世絵ヒストリー 丹波コレクションの世界」展

[館長コラム vol.1] 館長が行く！ 横歴探訪
戸塚区八坂神社の
お札まきと女装・異性装

写真展「杉原千畝と命のビザ——シベリアを越えて——」
寿福滋が追い続けた写真



氷川丸（寿福滋氏撮影）

EXHIBITION これからの催しもの

企画展

寿福滋写真展 杉原千畝と命のビザ
—シベリアを越えて—

9月24日(土)～11月27日(日)

関連イベント

・講演会「命のビザと歴史的背景
—1940年前後のヨーロッパ情勢—」

10月30日 14:00～15:30

講師：白石仁章氏（外務省外交史料館 課長補佐）
事前申込（10月12日必着）

・写真家・寿福滋氏によるフロアレクチャー

10月1日、10日、11月3日、27日 11:00～／14:00～
当日受付

横浜市指定・登録文化財展

12月10日(土)～1月9日(月・祝)

横浜をめぐる和船と水運（仮）

1月28日(土)～3月20日(月・祝)

常設展示室ミニ展示

博物館実習展 土鈴を“伝える”

—博物館資料の整理・調査の中から—

10月15日(土)～12月4日(日)

大倉精神文化研究所内遺跡出土資料

12月17日(土)～2月5日(日)

企画展「横浜をめぐる和船と水運」（仮）開催記念

浮世絵・絵図で旅する横浜の海辺

2月18日(土)～4月2日(日)

体験学習室

ミニおにぎり展 2016 —実りの秋を考えよう—

9月16日(金)～11月24日(木)

※11月25日(金)は展示替えのため閉室です。

ちょっと昔を探してみよう・冬

11月26日(土)～3月29日(水)

横浜市歴史博物館および大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

○開館時間

9:00～17:00（ただし券売は16:30まで）
大塚遺跡を除く公園部分は24時間オープン

○休館日

月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始 その他展示替え
などのため、臨時に休館することがあります。

○常設展観覧料

区分	個人	団体（20人以上、1人につき）
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生	100円	80円

■特別展・企画展の観覧料は別に定めます。

■毎週土曜日は、小・中・高校生は無料です。

■横浜市内在住の65歳以上の方は無料です。「濱ともカード」
など証明できるものをご提示ください。

■「身体障害者手帳」「愛の手帳（療育手帳）」「精神障害者保
健福祉手帳」をお持ちの方と介護者は無料です。入館の
際に手帳をご提示ください。

○交通

横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分
（「センター北駅」へは横浜駅から23分、新横浜駅から12分）
・駐車場あり（1時間200円）



[URL] <http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>

[twitter] @yokorekihaku



シベリア鉄道 寿福滋撮影

が 続けた 寿福滋 追い続けた 写真

文 井上 攻

写真展「杉原千畝と命のビザ」シベリアを越えて」の作家寿福滋さんは、「命のビザ」の物語を追う写真家でもあると共に、文化財撮影の第一人者でもあります。寿福さんのライフワークであるこの二つのテーマとの出会いは、少年時代にあったと言えます。

寿福さんは一九五三年、神戸に生まれ滋賀県で育ちました。少年時代の文化財との出会いについては、今年八月四日付の『京都新聞』記事「文化財撮影地道に四〇年」が詳しく紹介しています。一九六〇～七〇年代、滋賀では国鉄湖西線の敷設工事にもなう開発で遺跡調査が盛んに行われていました。「考古学ボーイ」であった寿福さんは、工事現場で土器片を

は、その後小学校の教科書に多く掲載され、たくさんの子ども達に弥生時代の集落のイメージを植え付けました。二〇代のおよそ八年間、横浜での調査活動で、寿福さんは、花見山遺跡や大熊仲町遺跡など、港北ニュータウンを代表する遺跡の発掘に立ち会い、写真家として成長することになります。

一九八一年、寿福さんは活動の場を関西に移します。「卑弥呼の鏡」の発見と話題となった「雪野山古墳」(滋賀県)の撮影など、歴史的な考古発掘に携わる一方で、撮影対象を考古学写真のみならず、仏像や古建築など文化財全般に広げ、文化財写真家として関西で名が知られるようになります。JR東海の京都誘客キャンペーン「そうだ京都、行こう。」シリーズの平等院鳳凰堂のポスター(二〇〇三年)は、寿福さんの作品です。広角で捉えた鳳凰堂は、その圧倒的なスケール感と共に、凛としたたたずまいを見せており、寿福さんの文化財写真の一つの到達点となりました。

一方、寿福さんの「命のビザ」物語との出会いは、小学校の時、担任の先生が朗読したV・E・フランクル著「夜と霧」がきっかけだと言います。朗読の中で寿福少年の心に、唯一鮮明な映像のように残ったのが、捕えられ、疲れ果てた人々が、有刺鉄線ごしに見た美しい夕景に感動し、「世界ってどうしてこう綺麗なんだろう」と話している場面でした。以来、遺跡発掘調査での帰り道に出会った夕日、琵琶

見つけては調査現場に持ち込んだと言います。高校卒業後は発掘調査のアルバイトに精を出し、その後考古学写真家の道を選びます。

その頃、横浜では港北ニュータウンの開発にともない、やはり発掘調査が最盛期を迎えつつありました。縁があって寿福さんは港北ニュータウンの調査事業に職を得て、横浜にやってきました。一九七四年、寿福さんが二十一歳の時です。その後寿福さんは、横浜で多くの考古学写真を撮影します。国史跡となった大塚遺跡の空撮も寿福さんです。雨で何日か待たされた後の撮影でした。この空撮写真



花見山遺跡調査に関わった人たち 1978年頃後列右から二人目が寿福さん
【(公財) 横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター写真提供】

湖に沈む美しい夕日を見るにつけ、ふと少年だった頃に聞いたアウシュビッツの夕日の場面が甦って来たそうです。

一人前の文化財写真家となった寿福さんは、一九九四年、四十一歳の時にポーランド一周の団体旅行に参加し、アウシュビッツを訪ねます。当時収容者だった人の説明に感銘を受け、団体を離脱し、その人と夕方まで過ごしたと言います。この頃、杉原千畝の夫人幸子さんの著書「六千人の命のビザ」が出版され、千畝の事跡が世に知られるようになっていました。が、寿福さんのアウシュビッツ訪問はちょうどその時期でした。この訪問をきっかけに、「命のビザ」を手に逃避行を続けた人たちのルートを辿る、寿福さん独自の取材の旅が始まりました。

まだ独立して間も無いリトアニア、冬のシベリア鉄道、モスクワ、ウラジボストークから敦賀、エルサレム、ニューヨークなど、多くの国を訪ね、多くの人たちと出会い、「命のビザ」で結ばれた強い絆を感じるようになったそうです。

今回の写真展で、寿福さんは「命のビザ物語」の舞台に横浜を加えました。二〇代の時に、自分を育ててくれた横浜の地で、その後情熱を傾け追うことになる二つのテーマをクロスさせたいの思いがあったと言います。

寿福さんのこの思いが伝わるかは、展示をご覧になって判断してください。

丹波コレクションの世界展



平成28年6月18日(土)～7月10日(日)に開催した「楽しい浮世絵とストーリー 丹波コレクションの世界」展は、当館初となる本格的な浮世絵展でした。近年の浮世絵ブームもあってか、多くのお客様にご来場いただいた本展ですが、実は企画誕生のウラには、とある事情がありました。そこで今回、読者の皆様だけに、その「ウラ事情」をご紹介します。合わせて、本展で初めて実施したイベントについてもご報告いたします。

一、浮世絵展誕生秘話？

本展は、神奈川県立歴史博物館(以下「県博」と略)所蔵の「丹波コレクション」の作品を紹介する内容で、県博の全面的な協力のもと開催しました。

県博では、空調設備等の改修工事のため、平成二八年五月三〇日から平成三〇年四月下旬までの約二年間、全館休館することとなりました。そして工事完了までの約一年半の間、収蔵する資料を外部の施設に移転させる必要が生じ、当館は、「丹波コレクション」等の保管を依頼されました。

この貴重なご縁をきっかけに、コレクションの搬入に先駆けて、両館が連携して企画展を実施してみようという事で誕生したのが本展だったのです。急遽決まった企画であり、準備期間も決して長くはありませんでしたが、展示内容・図録・解説パネル等々、すべて県博の学芸員の方々にご助力いただき、なんとか開催にこぎ着け、無事終了することができました。

さて「丹波コレクション」自体の当館への搬入ですが、展覧会閉会後、七月下旬に行われました。

当館では事前準備として、収蔵庫に専用の棚を設置しました。資料がきちんと収まるかどうか、サイズや設置場所について県博の担当の方にも確認していただきました。

一方県博では、資料を燻蒸(くわんじょう)気体の薬剤を用いて殺菌・殺菌することした上で梱包が行われ、万全の状態に移動させる準備が整いました。そしていよいよ搬入当日。中性紙の箱に規則正しく入れられたコレクションが、当館収蔵庫に次々と運び入れられました(右下写真)。その数百四十二箱。作品たちは無事に棚に収まり、この仮のねぐらで、県博が再開する時を待っています(※)。



(※) 県博閉館中は、「丹波コレクション」の熟覧や貸出は実施しておりませんので、なにとぞご了承ください。

二、浮世絵スタンプ、初開催

本展に伴う目玉企画として実施したイベントが、「浮世絵スタンプ」です。浮世絵は、一色ずつ順番に摺り重ねることによって、華やかな色彩が生まれます。「浮世絵スタンプ」は、複数の色、つまり複数のスタンプを重ねて押し、一つの浮世絵を完成させる仕組みになっています。色の重なりをどなたでも体験できるのです。これまで本格的な浮世絵展を開いたことがなかった当館にとって、初の企画となりました。



の作品が完成します。もちろん作品はお持ち帰りいただけます。

イベントは、会期中の土日に、無料のイベントとして実施しました。初企画ということもあり、お客様の反応が心配でしたが、計八日間の実施で、大人の方からお子様まで、千人以上の方がご参加下さいました。アンケートでも「面白かった」「きれいだった」「思い出になった」等の感想をいただきました。

短い会期の展覧会でしたが、県博やシヤチハタ(株)、(株)モリイチをはじめ、多くの方にお力添えいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。このご縁を大切に、来年度「丹波コレクション」展第二弾を実現できたら…と考えています。

楽しい浮世絵ヒストリー

今回、株式会社モリイチのご協力を得て、スタンプを制作したシヤチハタ株式会社から、葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」の「浮世絵スタンプ」をお借りすることができました。黄・赤・藍・紫・黒の五つのスタンプを押すと、はがきサイズ



浮世絵スタンプで作成



常設展示室では平成一八年(二〇〇六)以来、普段お目にかける機会の少ない収蔵資料を期間限定で展示する“ミニ展示”を実施してきました。古文書や浮世絵、考古遺物や民俗資料など、さまざまな分野の資料をご紹介します。最終日の展示解説ではなんと！絵巻物を学芸員が展示ケースから取り出し、お客様の目前で巻き取りながら説明したこともありました。

「ご好評をいただいていた“ミニ展示”ですが、会場が常設展示室のスタディサロンであるため、学校団体のご利用の多い時期には開催できず、七・八・九月、一・二・三月に一週間ず

つという短い期間での開催となり、多くの方にご覧いただくことができないなどの悩みもありました。そこで、今回思い切つてリニューアルをはかり、新生“常設展示室ミニ展示”として再スタートを切ることにしたのです。

「常設展示室ミニ展示」では、展示場所をガイドウォール(歴史年表)向かいに移しました。これにより、常設展示室に入場される方の目に付きやすくなったほか、学校団体の見学にも支障がなくなり、長期間の展示が可能になったため、より多くのお客様にご覧いただく機会を増やすことができました。展示資料もこれま

での当館収蔵資料から広く横浜地域の資料に幅を拡げ、さまざまなテーマの展示にチャレンジしてゆきます。会期中の毎月末土曜日にはイベントデーであるラストサタデープログラムがありますが、この日に“常設展示室ミニ展示”の解説を午前十一時～十一時三〇分、午後二時～二時三〇分の二回ずつ行います。

リニューアル後、「平将門の乱をめぐって」「横浜地域の後北条氏文書」の二回の展示を開催し、ご好評をいただいています。平成二八年度の今後の予定は右記の通りです。

これからの“常設展示室ミニ展示”に、どうぞご期待ください！

2010

- 縄文時代の骨角器類 (1月9日～17日)
- 法隆寺百万塔と関連資料 (2月13日～21日)
- 戸塚「丁子家」関係資料 (3月13日～22日)
- 小田原北条氏印判状と関係資料 (7月10日～19日)
- 豊広 東海道五十三次 (8月14日～22日)
- 近世・近代音楽関係資料 (9月11日～20日)

2009

- 初代広重「東海道五拾三次之内」(保永堂版、小判複製) 55点 (1月20日～25日)
- 三代広重「東海道五十三次」(小判) 56点 (2月10日～15日)
- 明治時代～昭和時代初期の絵はがき (3月10日～15日)
- 武蔵国橘樹郡今井村・高野家文書 (7月14日～20日)
- YES89 横浜博覧会関連資料 (8月11日～16日)
- 「曾我物語絵巻」とその他版本類 (9月8日～13日)

2008

- 武蔵国分寺文字瓦 (1月14日～20日)
- 神奈川宿青木町相模屋文書 (2月11日～17日)
- 縄文時代の石器群 (3月11日～16日)
- 武家出世双六 公家出世双六 (7月8日～13日)
- 天平七年相模国正税帳・天平十年駿河国正税帳 (8月5日～10日)※
- 明治期 西川製オルガン (9月15日～21日)

2007

- 『六波羅合戦絵巻』・保元物語平治物語版本 (1月16日～21日)
- 翡翠大珠・緑区出土縄文土器 (2月20日～25日)
- 武州橘樹郡鶴見村文書 (3月20日～25日)
- 「上杉憲顕奉書」「大道寺政繁書状」「北条時宗下知状」「別当弘尊充行状」 (7月16日～22日)※
- 「長尾忠景書状」「矢野憲信書状」「永盛書状」「久甫淳長置文」 (8月21日～26日)※
- 飛鳥京跡・藤原宮跡・平城京跡・多賀城跡出土武蔵国関係木簡 (9月17日～24日)

2006

- 『後三年合戦絵詞』上・中巻 (7月11日～17日)
- 『後三年合戦絵詞』下巻・『合戦絵巻』 (8月15日～20日)
- 『年中行事風俗絵巻』・『四季風俗図巻』 (9月12日～18日)

過去の
収蔵資料
ミニ展示

※複製資料による展示



常設展示室
ミニ展示が
リニューアル
しました！

博物館実習展 土鈴を“伝える”

・平成28年10月15日(土)～12月4日(日)
・解説日:10月29日(土)、11月26日(土)

大倉精神文化研究所内遺跡出土資料

・平成28年12月17日(土)～2月5日(日)
・解説日:12月24日(土)、1月21日(土)

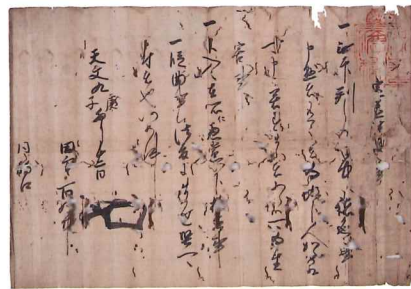
企画展「横浜をめぐる和船と水運」(仮)開催記念
浮世絵・絵図で旅する横浜の海辺

・平成29年2月18日(土)～4月2日(日)
・解説日:2月25日(土)、3月25日(土)

2016

(8月20日～10月2日)

ミニ展示「横浜市域の後北条氏文書」



一五世紀末より約一〇〇年間にわたって関東一帯を領有した戦国大名・後北条氏の古文書は横浜市域にも多く伝っていますが、そのほとんどは博物館や公文書館などの公共機関に収蔵されています。しかし市域の個人宅や寺社等に所蔵されるものも多く、横浜市歴史博物館ではこのような古文書について改めて調査をし、順次ご紹介をしていきたいと考えています。本ミニ展示はその試みの第一弾になります。

今回展示したのは①村田家文書・②小岩井家文書・③大嶋家文書・④大曾根武家文書・⑤堤家文書および⑥当館所蔵文書です。このうち①②⑤の文書群はすでに当館および横浜開港資料館にご寄託いただいています。中世文書のみを採り上げて展示をするのは初めてです。展示期間は資料保存のため前半・後半に分け、前半(八月二〇日～九月九日)には北条氏政判物写・北条氏政感状・覚・北条歴代(以上四点・①村田家文書)、北条氏綱判物(以上一点・②小岩井家文書)、北条氏光朱印状写・長野四郎兵衛書状・系譜抜書(以上三点・③大嶋家文書)を、後半(九月一〇日～一〇

月二日)には北条氏繁判物(以上一点・⑤堤家文書)、北条家着到定書写・北条家朱印状写(以上二点・④大曾根武家文書)、北条家船手判朱印状(⑥当館所蔵資料)を展示しました。

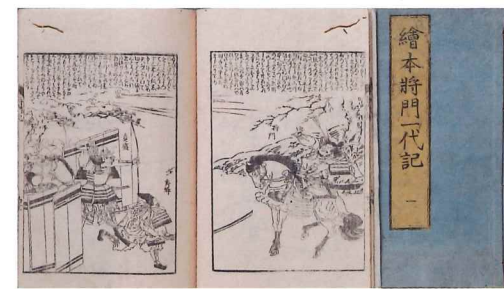
このうち特に注目したいのは②小岩井家文書に含まれる「北条氏綱判物」(写真)です。この文書は二代当主・氏綱が伊豆国田方郡(静岡県伊豆市付近)の百姓中と触口に宛てたもので、氏綱の花押が据えられる他、袖の上部にいわゆる虎朱印が捺されています。内容は虎朱印の捺していない年貢公事等の課税には応じずに、懸けてきた者を捕まえる事、北条氏と対立する悪党を村に匿わない事を命じており、地域に北条氏の朱印状による命令を徹底させる役割を持っています。この資料は後北条氏の古文書を収載した資料集にも掲載されておらず、今後の研究が期待されるものです。

これからも市域の後北条氏文書にかかわる調査・展示を実施していきたいと考えています。是非ご期待ください。(阿諏訪 青美)

2016

(6月18日～8月7日)

ミニ展示「平将門の乱をめぐって」



平将門の乱は十世紀の前半に関東を舞台として起こった戦乱です。同時期に瀬戸内海で起こった藤原純友の乱とともに、承平・天慶の乱として高校日本史の教科書にも載っていますので、ご存じの方も多いかと思いますが、主戦場は筑波山麓ですが、将門は関東を制圧する過程で、天慶三年(九四〇)一月に現在の横浜市域を含む武蔵・相模両国の国府にも軍を進めています。武勇にすぐれた兵であり、一時は新皇と称して関東を手中におさめながら、あっけなく敗れ去った将門の最期はドラマチックで、後世に数多くの伝説を生むことになりました。

ミニ展示では、当館で収集する平将門の乱に関わる文献資料を中心に展示しました。乱の同時代記録である「将門記」の江戸時代版本や「本朝世紀」の明治時代写本、鎌倉幕府の将軍が将門に寄せた関心の高さを記す「吾妻鏡」の江戸時代版本、後世のさまざまな伝説―将門の身体が鉄でできている・斬られた首が自分の身体を求めてわめく・加持祈祷の靈験によって将門が減んだ…などの伝説を述べた「太平記」の江戸時代の版本

や絵入り娯楽本「絵本将門一代記」などです。「絵本将門一代記」では、将門が純友と比叡山で反乱を語り合う場面・将門が調伏される場面・将門の最期の場面を展示し、後世の資料ではありますが、数少ないビジュアル資料としてお楽しみいただけたかと思えます。

平将門の乱は藤原純友の乱とともに、東西同時兵乱として朝廷を震撼させた大事件だったので、乱を平定した藤原秀郷や平貞盛らの兵たちは英雄視され、軍事貴族・武士団の棟梁として成長してゆきました。ミニ展示では、こうした武士団にかかわる十一世紀頃の遺物として、横浜市都筑区の西ノ谷遺跡から出土した大鎧の部品や鍬も展示しました。

二度の展示解説では、今から四〇年前に放映された平将門を主人公とするNHKの大河ドラマ「風と雲と虹と」(海音寺潮五郎原作、加藤剛主演)に触れたところ、眼を輝かせて聞いている方が多くいらつしやいました。将門は今もなおヒーローであり続けているのかもしれない。

(柳沼 千枝)

2016

- 汽車土瓶 (1月9日～17日)
- 造庭法・蓬萊記 (2月13日～21日)
- 本朝世紀・六波羅合戦絵巻 (3月12日～21日)



2015

- 近年の寄贈民俗資料から -古写真・地図・映像(1月10日～18日)
- 佐久間象山の書簡 -象山展未公開資料(2月7日～15日)
- 横浜の板碑 (3月7日～15日)
- 海の日企画 横浜の貝塚出土資料 (7月11日～20日)
- 大塚遺跡の出土資料 (8月8日～16日)
- 吉田新田関係資料 (9月12日～23日)



2014

- 新収蔵浮世絵展 (1月11日～19日)
- 縄文時代草創期の遺物 (2月8日～16日)
- 竹の民具(3月8日～16日)
- 緑区郷土史研究会考古部会の採集資料(7月12日～21日)
- 武蔵国豊島郡司、大伴宮足をめぐって(8月16日～24日)
- 鎌倉街道関連資料 (9月13日～21日)

2013

- 幕末・明治の書と画 -旧相模国鎌倉郡資料(1月12日～20日)
- 鶴岡八幡宮関係文書と横浜 (2月9日～17日)
- 鍛冶ヶ谷村名主・二代小岩井六郎兵衛とその周辺(3月9日～17日)
- ちょっと昔を“ちいさなおもちゃで”探してみよう(7月13日～21日)
- 吉田新田の開発 (8月3日～25日)
- 結城合戦絵巻(写本) (9月7日～16日)

2012

- 旧金沢甚衛コレクション -旧相模国鎌倉郡資料(1月14日～22日)
- 戦前グラフ雑誌が伝えた色と世相 (2月11日～19日)
- 石渡江逸の版画作品 -昭和初期、横浜の風景(3月10日～18日)
- 汽車土瓶 -旅のおともにお茶はいかが?-(7月7日～16日)
- 典籍資料にみる古代武蔵の牧と駒牽 (8月11日～19日)
- 藪根不動原遺跡出土資料 (9月8日～17日)

2011

- 記念煙草に見る昭和の世相 (1月15日～23日)
- 縄文時代前期末の土器 (2月11日～20日)
- 稲荷前16号墳出土資料 (3月12日～21日)
- 鶴見区潮田村荒井家文書 (7月9日～18日)
- お穴様(鶴見区・駒岡瓢箪山古墳)関係刷り物 (8月13日～21日)
- 緑区北門古墳群出土の円筒埴輪 (9月10日～19日)

「れきし工房」スタートしました

当館ではこれまで、大塚・歳勝土遺跡公園内にある工房を会場に「体験学習」としてさまざまなワークショップを開催してまいりました。その中では、土偶づくりやぞうり編み、紙すき、染めものなど、年間を通じて本格的なもののづくり体験を多くの皆さまに提供し、ご参加いただいた方からも好評を頂いてまいりました。

しかし、10年前とは異なり、センター北駅周辺には多くの商業施設が建ち並び、子ども向けのワークショップもそうした施設のあちこちで開催されるようになりました。そこで、今年度からは、博物館ならではのワークショップとなるよう、これまで好評をいただいていた部分はそのままに、内容から実施方法などのすべてを見直し、名前もあらたに「れきし工房」として再スタートいたしました。

一番のポイントはものづくりの前の学芸員に

よるミニレクチャーです。自分の手でものをつくるのは楽しい作業ですが、作るものにまつわる歴史や文化をこのレクチャーで学ぶことで、その楽しみや喜びを大きなものにしていただきたいと考えております。おうちに帰ってからも学習できるように、特製のワークシートも今回からご用意いたしました。

材料や作品の製作に必要な道具などは博物館で用意いたしますので手ぶらでご参加いただけるほか、従来は小学生以上とさせていただいておりましたが、今回からは

未就学児童も親子で参加いただけるようになりました。もちろん小学生以上であればおひとりでお自分の作品をつくるができますし、大人の方のみの参加ももちろん大歓迎です。「れきし工房」で普段はあまり使わないカッターや千枚通しなどの道具を使い、ものづくりの難しさや楽しさ、奥深さに触れて欲しいと思っています。

また、「れきし工房」にご参加いただいた皆さまが博物館もお得に楽しめるよう、ワークショップ参加者に参加証をお渡しするようにしています。この「れきし工房」参加証で博物館の常設展示室が無料になるほか、ミュージアムショップのオリジナル商品がお得にお買い求めいただけるようにもなりました。参加証はシールになっており、初めてご参加いただいた方には、シールブックもお渡ししています。たくさんの「れきし工房」に参加いただき、自分だけのものづくりの証しを集めて欲しいと思います。下半期もワークショップ「れきし工房」をどうぞよろしくお願いいたします。(羽毛田 智幸)



いろいろなワークシート



このロゴをご覧になったかたはいらっしゃいますか？



Produced by FUJI XEROX

このロゴは、今年の6月2日の開港記念日に当館に初登場したイベント「レキコラP」のものです。

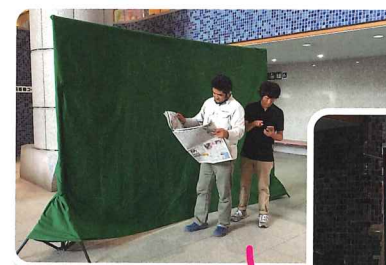
初めは「レキコラってなに?」「何て読むの?」「どんなことするの?」と担当スタッフ以外は「?」だらけでしたが、当館の夏の企画展「よみがえる学校の文化財」の関連イベントとしてはもちろん、早くも大阪の弥生文化博物館でも実施された、当館発のイチオシ企画です。

“歴史×コラボ×コラージュ ×プリント”を略して「レキコラP」ですが、私たちもようやく、照れや戸惑いがなく「レキコラ」と呼ぶようになってきました。このレキコラ、実は富士ゼロックス株式会社とのコラボ企画です。

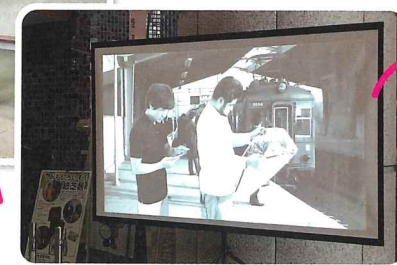
内容はカメラの顔認識機能を利用したデジタル顔出しや、懐かしの写真にタイムスリップして写り込んだ写真を記念にプリントして、お客様にプレゼントするものです。文字で説明するとかなりわかりにくくなってしまいますが…

このレキコラは、ゼロックスさんからはデジタル技術やプリントを、当館からは場所の確保や素材となる画像をそれぞれ持ち寄り、新たな次世代のサービスをお客様に提供できるかどうかの実証実験です。新たなチャレンジにはトラブルがつきもので、肝心のプリントがうまく行かなかったり、機材の接続が途切れたり、まだまだ安定したサービス提供には課題が多くありますが、参加いただいた皆さんには大変好評をいただいております。

博物館の既存の施設の活性化や魅力の再発見に結びつけていけるよう、常設展示室内やエントランスなど博物館のあちこちで今後もレキコラを開催していく予定です。チラシや館内でこのロゴマークを見かけたら、「また博物館がチャレンジしているな」と、温かい目で見守りつつ、ぜひレキコラを楽しんでいただければ幸いです。(羽毛田 智幸)



緑の背景の前でカメラに写ると



懐かしの写真の中にタイムスリップ!



こんな記念はかきにプリントしてプレゼントしています!



戸塚区八坂神社の お札まきと女装・異性装

文 鈴木靖民

今年（二〇一六年）の七月一四日、私は博物館での会議を済ませてから、戸塚宿があった旧東海道と鎌倉街道の交わる地点に坐す戸塚区の八坂神社に向かいました。この日は神社の祭礼の最終日で、無
病息災を
祈って行わ
れるお札ま
きを一目見
てみたいと
考えたので
す。という
のも、お札
まきは男性
たちが女装して洪団扇を打って踊りながらお札を空中にまき、集まった信者がそれを手にすると知ったからです。境内の「由緒」にはそれを「原始的踊り」と記し、ネットには「奇祭」という



人もいました。踊りは横浜市の指定無形民俗文化財になっています。私は神社に着いて参拝すると、お札まきでまかれるのと同じ「正一位八坂神社御守護」と刷られた一枚を頂きました。やがて社殿横の広場に男性十数人が赤っぽい着物に襷掛けをして裾をからげ、頭を姉さんかぶりの女装で現れ、お払いのあと、その広場で、カツラを被った音頭取りの歌に合わせて唱和しながら手をうち団扇を振り、輪になって右回りに踊り始めました。大幣を持つ男性が付いていました。踊りの終わりに、音頭取りが手に持った五色のお札を団扇で扇いで空中にまき散らすと、回りの人々が競ってこれを手で捉えました。女装した一団は神社の石段を下り、歌いながら踊って町内の屋台、露店の出ている通りを進み出したのですが、私は雑踏を逃れて帰途についたのでし



お札まき お札まき連中提供



私が館長の
鈴木靖民の
です。

横浜市指定
無形民俗文化財

お札まき

た。歌詞は三番まであり、一、二番に「ありがたいお札、授かった者は病いをよける、コロリも逃げる、そらまく、そらまくぞ」という文句があつて、京都の八坂神社の祇園祭と同じく御霊信仰に基づく厄霊除けの行事であること示しています。それは神社がもとは「天王さま」、つまり牛頭天王社と呼ばれたことから分かります。私は踊りの始まる前に、保存団体「お札まき連中」の総代の内田俊夫さんに、同社は元亀三年（一五七二）に勧請され、元禄元年（一六八八）再興後、戸塚宿の鎮守となった古社で、その時お札まきの踊りも始まったとの伝承がある伺いました。この種の踊りは江戸時代には江戸や大阪で盛んだったが、今は戸塚にだけ伝わり、町内を回るのは門付けの名残かというご意見でした。横浜市教育委員会の刊行物をみると、踊りは単純な動作で、芸能としての価値はほとんどないが、こうした護符配りは極めて珍しくなり、民間信仰の貴重な資料であるとあります。「原始的踊り」

「奇祭」というよりも、私は歌詞にみられる通り、江戸時

代の街道筋の庶民の風俗や生活の一端を伝えた祭りの素朴な雰囲気を感じ取ったのでした。そして気になるのは女装です。女装は今やタレントや歌手に少なくなく、テレビの映像でみかけても違和感が少なくなりました。私が専門とする日本の古代にも女装は知られますが、史料上、女性の男装のほうが多々みられます。神功皇后の新羅征討説話には、筑紫の檀日浦で男装をして髪結いの賭けを行ったと伝えます。日本武尊の熊襲征討説話では、征討に赴いた先の饗宴の席で童女が髪を垂らした形で、姨の衣装を着て相手の熊襲の首長を騙して殺害するのがある。ともに何か現実の反映でしょう。奈良・平安時代には女官が儀式の時に男装をする奉翳美人や、行幸に際して冠から下着の汗衫まですべて男ものを着て男性名を名のり、輿に乗る東豎子（とうしうし）がいました。東大寺の唐女舞には女子が袍袴を着けて舞いました。後世の白拍子などの代走歌舞の起源かとされます。異性装は男性、女性にみられたり、つまり身元を隠すためですが、これらに共通するのは儀式や饗宴の場という点です。それは結論をい



お札まき お札まき連中提供

ば、異性に扮することで非日常性、異人性を訴え、さらに神が依り付く神格化した姿を表します。饗宴の時の仮装も同様でしょう。今風にいうと、劇場型です。八坂神社の祭礼の女装と古代の宮廷や寺院での異性装とは大分時間を隔てますが、どこかでつながるに違いありません。唐や新羅でも異性装がありました。各地で神に扮する民俗行事もあります。これらのことはまたの機会に述べてみたいと思います。

Museum Shop pick up Item

ミュージアムショップ ピックアップアイテム

今年6月18日から7月10日までに開催された企画展「楽しい浮世絵ヒストリー」期間中の関連グッズとして、当館ショップオリジナルの企画展コラボ商品、「一筆箋」「ジグレイ版画」を紹介します。いずれも横浜市歴史博物館所蔵の浮世絵を使用した他では手に入らないアイテムです。

一筆箋 全5種 1冊324円 / 2冊600円 / 3冊850円 / 5冊1,400円

まとめ買いで
チョットお得!!

東海道の宿場と美人画の浮世絵を使用した一筆箋です。いつの時代も手書きで一筆添えてあるのは、書く側も心を込めますし、もらう方にとっても嬉しいものですよね。浮世絵柄で言葉に華を添えて心を込めたメッセージを送ってみませんか。お好みの組み合わせで購入することができます。



絵柄は5種類、便箋は全て縦書用の罫線入りです。

ジグレイ版画 全6種 1枚1,200円



左「戸塚宿六」(美人東海道) 深斎英泉
右「東海道五十三次之内保土ヶ谷新町橋」(保永堂版) 歌川広重 (初代)

※価格はいずれも税込みです。

「一筆箋」と同様、東海道の宿場と美人画を使用したジグレイ版画です。この版画にはジグレイ印刷という、デジタル・リトグラフとも言われる超高密度の印刷技術が使われています。顔料インクを使用し耐光性、耐水性に優れ、保存性は50年とも100年とも言われているジグレイ版画は、最近では複製画の主流になる勢いで普及しています。また、美術品としても世界で認知されている技術で、長く飾っておいても品質が劣化しないのは魅力ですね。飾る場所を選びませんのでどうぞお部屋のお好きな場所に置いて楽しんでください。

おおつか さいかちどいせきこうえん

大塚・歳勝土遺跡公園だより

大塚・歳勝土遺跡は、昭和47年から昭和51年にかけての発掘調査によって、今からおよそ2000年前の弥生時代中期の環濠集落と方形周溝墓が一体となって発見されました。そして当時の集落の全体像が明らかになる貴重な遺跡として、昭和61年に国史跡に指定されました。その後、国民共有の財産を広く一般に理解・体感していただくことを目的として整備を行い、平成8年に大塚・歳勝土遺跡公園がオープンしました。以来、公園は多くの来館者にめぐまれ、平成28年3月に開園20年を迎えました。

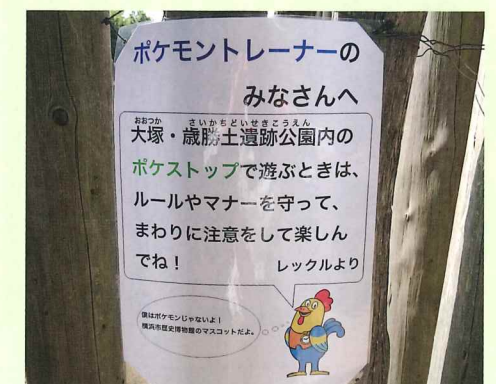
公園にはいろいろな目的を持った人が来園します。遺跡を見学する以外にも、ランニングやウォーキングに励む人、保育園児の散歩コースなど、休日ともなれば近隣家族の憩いの場として、日々にぎわっています。今回はそんな来園者の中でも、「なにかを捕まえる」ことを目的に夏の遺跡公園にやって来た人々をご紹介します。

1 サイカチムシの楽園



「大塚・歳勝土遺跡」という遺跡名は、付近の古い地名から名付けられました。「大塚(オオツカ)」という地名は、ここに中世の大きな塚があったことに由来します。それでは「歳勝土(サイカチド)」という地名の由来は何でしょうか?サイカチ(皂莢)の木を思い浮かべる人もいるかもしれませんが、現在の遺跡周辺にはこの木は生えていません。このサイカチドとは「サイカチムシが多く集まる土地」という意味だろうと言われています。サイカチムシとはカブトムシのことで、皂莢の木の樹液を吸うために集まることから、地域によってはこのように呼ばれることがありました。現在も夏になると公園内のいたる所で、サイカチムシとそれを捕まえにきた親子連れを見ることができます。

2 公園内でポケモンゲット?



7月22日から日本国内でも配信が始まったポケモンGOは、GPSによる位置情報・AR(拡張現実)を利用したゲームです。このゲームの特徴の一つは、全国の名所旧跡をチェックポイントとして設定していることです。このポイントに行けばアイテムがもらえる仕組みで、横浜市歴史博物館では2ヶ所、公園内では10ヶ所設定されています。配信当初は、1日500人以上が来園していましたが、8月末には大分落ち着きました。とは言え、公園内を歩いていると、スマホを手にした人がまだ目立ちます。利用者に最新の情報を提供するために、担当も日々ポケストップのバトリールに余念がありません。